

## ロクーン用ランチャーについての付記

岡 本 智

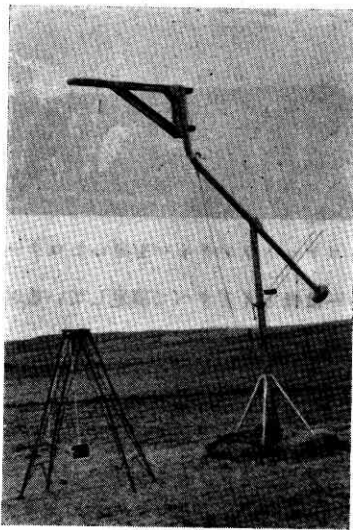
新しく案出したロクーン放球方法のために試作したこのランチャーは、前文のように作動は満足すべき結果が得られた。設計試作およびその後の改修に大いに努力された関係各位の労を大いに多とするものである。

実用上なお若干手を加えるべき点のあることも前記の通りであるが、この際すでに試みた二三の点について述べ、ご参考に供する。

## (A) 支柱①(第1図)の埋込みに使用する中空杭

支柱①を立てるために、折角固まっている地面を掘り起こして立てることは合理的ではない。そこで 3½" のガス管(内径 92φ)長さ 870mm の一端にテーパ付の金具を溶接し、さらに 2" のガス管を、最尖端に円錐状の金物を溶接して外観は一見葉莖付の砲弾のような全長約 1.4m の中空の杭を製作した。

これを予め所要地点に槌で打ち込む。その際杭の頭が潰れないようにガス管の内径に合わせたキャップをして打ち込む。



第6図 改修したランチャー  
(7月沖付海岸にて)

十分な深さに打ち込んだ後キャップを取り外して支柱①を差し込みながら立てる。

## (B) 角度調整装置

ランチャーの両腕を地面に下ろして小バルーンとロケットおよび吊下げ計器類を結合した吊下げ金具(第1図の⑫)を両腕の尖端で狭み、クランプした後に浮力測定に使った小バルーンのバランスウェイトを外しながら放球姿勢に立てる。

このとき完全に放球姿勢に立つまでは小バルーンの浮力数十kgが作用するので、ロケットや計器類にショックを与えないようにまた小バルーンがランチャーに触れて破れないように、十名近い人手で徐々に慎重に立てる。この作業は一点に多人数が集中するので、はなはだしく不便かつ危険である。

これを解決するために第1図の⑭のワイヤーロープを第6図のように、2本の角ネジに置き換え、⑥の両側に雌ネジを取り付け、支柱①の近くに取り付けたハンドルで雄ネジを回して、徐々に角度を立てるような装置を試作試用してみた。

結果はまだ十分人手を減らすことができない点と、使用しない時ランチャー全体にカバーをかける際不便な点がある。今少し別の工夫を要すると思われる。

## (C) クランプ安全装置

最初 ㄱ型の金具を使用して両腕が不時に開くことを防止する安全装置にしていた。準備が完了した後、放球直前にこの金具を竹竿で落とすのであるが、危険と不便を伴う。

これも下からワイヤーロープで外せる回転式の安全ピンに改めた。これは簡単で問題となる点はないようである。

以上3点は生研・試作工場によって改修した点である。その他まだ計画中のものとしては上記の(B)の件と本文【実験結果】(3)についてである。これらについては後刻にゆずる。

(1960. 1. 18)